

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No213

横浜市小中学校の子ども一人ひとりの学力の伸長を可視化  
—IRT型学力・学習状況調査の開始—  
山本朝彦先生(横浜市教育委員会教育課程推進室長)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。  
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

## (ご紹介)

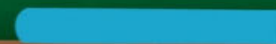
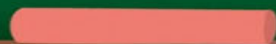


山本朝彦  
やまもと ともひこ

横浜市教育委員会事務局  
学校教育企画部 教育課程推進室長



横浜市内小学校教諭、横浜市教育委員会、西が岡小学校校長、市教育委員会教職員育成課長を経て、現在に至る。横浜市学力・学習状況調査を改訂し、IRT理論による個人の成長の分析や社会情動的コンピテンシーの研究による集団の成長の分析等、個と集団の成長を大事にした横浜市立学校のカリキュラム・マネジメントの確立と充実に向けて、様々な施策を推進している。





## No8(地域と学校が繋がる)

### #5 朝のあいさつから子どもの学びと成長へ

—(横浜市)市ヶ尾中学校ブロック学校運営協議会の活動—

- ・小学校と中学校がブロック連携
- ・あいさつからカリキュラム・マネジメントに持っていきたいですね

それではご覧ください

An aerial view of the Yokohama skyline, featuring several prominent skyscrapers and a river in the foreground. A large blue rectangular overlay box is positioned in the upper left quadrant, containing white text.

**横浜市**

**IRT型 学力・学習状況調査について**

**横浜市教育委員会事務局  
教育課程推進室 室長  
山本 朝彦**

# IRT型 学力・学習状況調査の 目的と仕組み



# 横浜市学力・学習状況調査の目的

児童生徒の学習状況の把握と学力向上を目指して調査実施  
中学校…平成17年度～ / 小学校…平成18年度～



学校

授業改善  
学校の  
運営改善



児童生徒や家庭

学習改善



教育委員会

学校支援  
教育施策

成果

- ① 学校の児童生徒の「学力」を知ることができる
- ② 学習状況について分析的、総合的に把握することができる

課題

- ① 児童生徒、一人ひとりの「学力」の経年変化を測れない
- ② 小学校から中学校まで継続して学習状況を把握できない

一人ひとりの  
「伸び」に  
着目した  
学状に！

# 横浜市学力・学習状況調査 変わったこと

これまで

学年・学校  
全体の概況



これから

個人の  
伸び

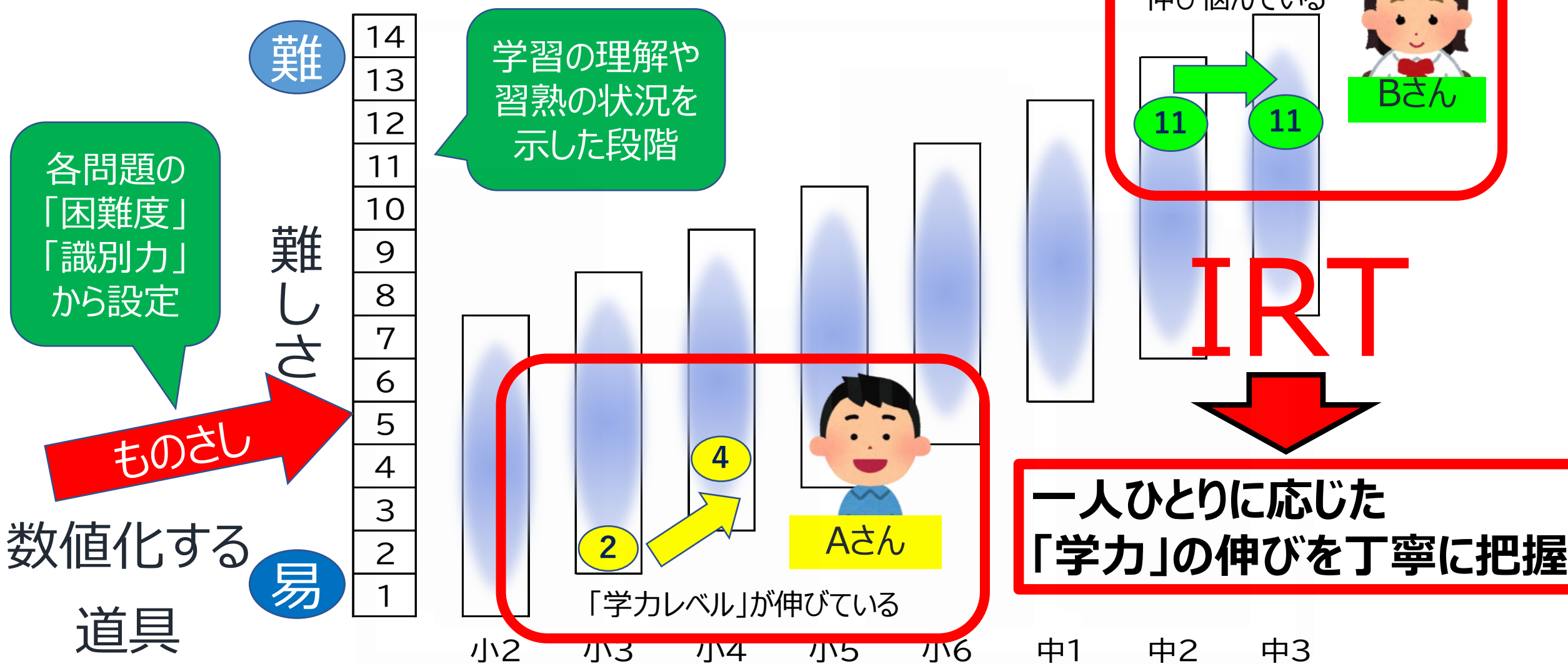
**ここでの「学力」…**

**横浜市学力・学習状況調査における、  
学習の理解や習熟の状況**



# IRTに基づく「学力」の把握

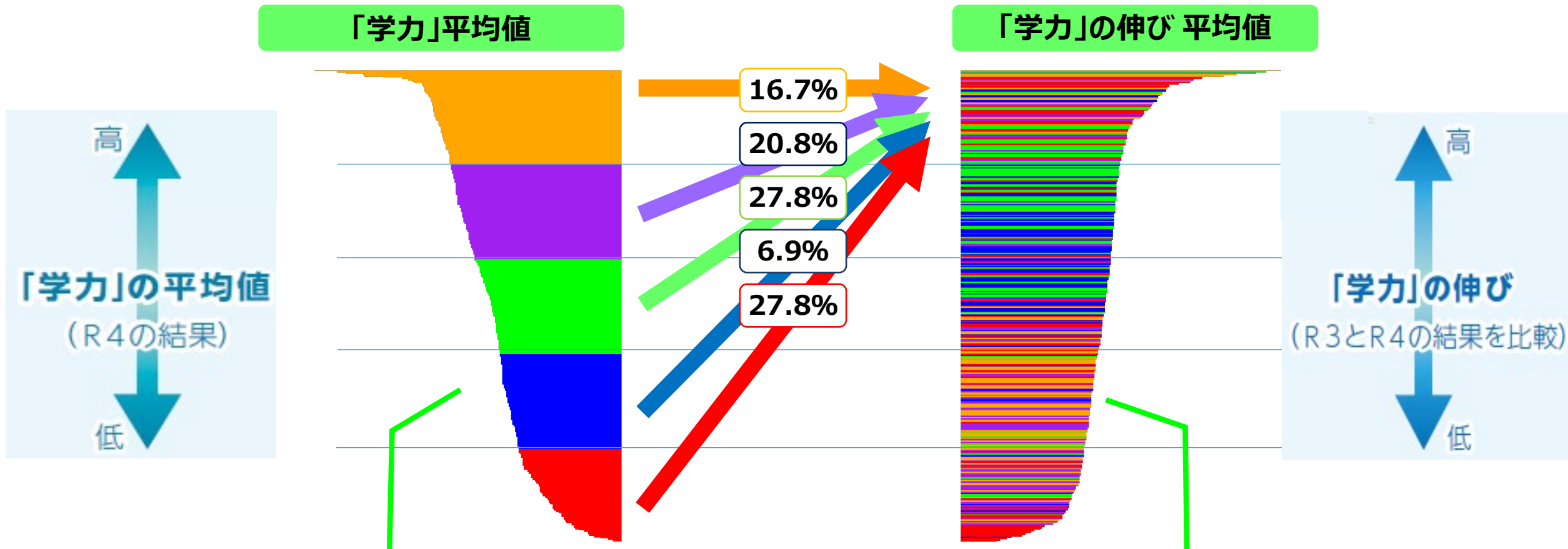
IRT…「学力」を数値化する測定理論（項目反応理論）



# 分析の結果

学校ごとの「学力」の平均値と「学力」の伸びの比較

# 学校ごとの「学力」平均値と「学力」の伸びの比較グラフ



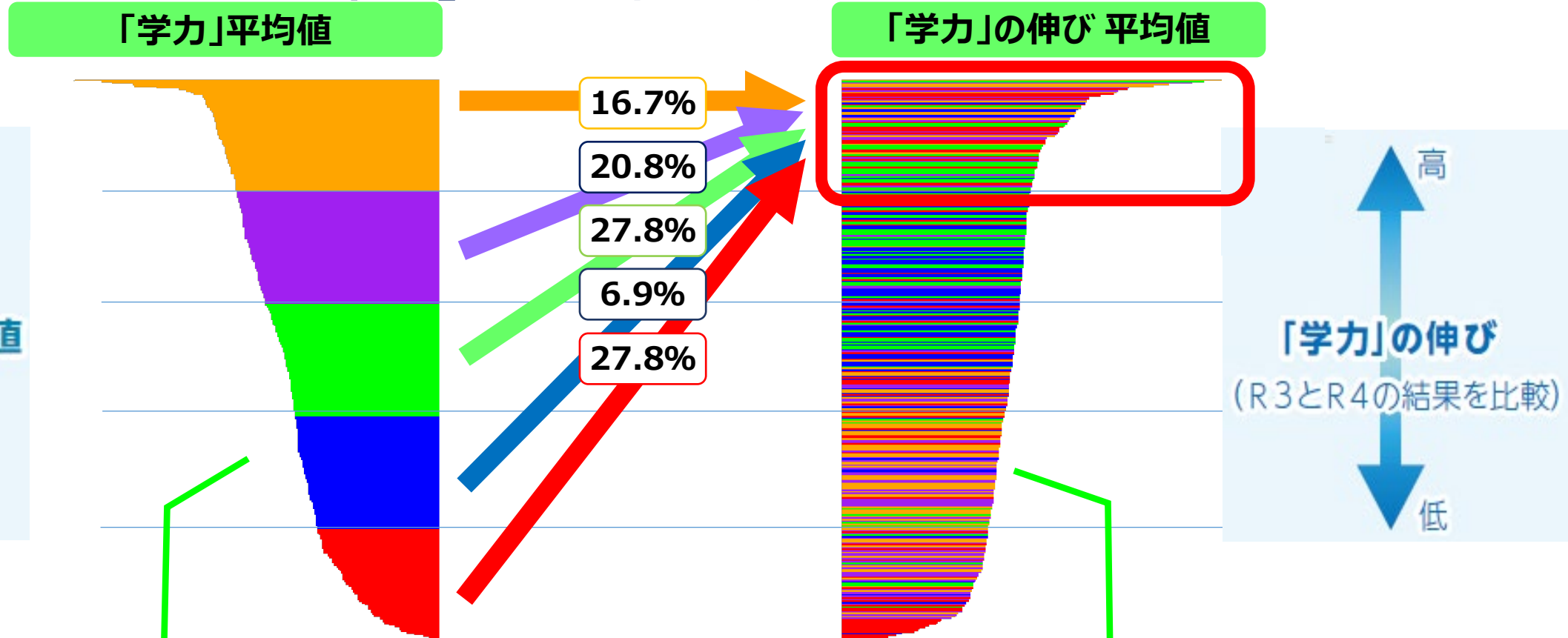
児童生徒の「学力」の値を  
学校別に平均した値

※「学力」…  
横浜市学力・学習状  
況調査における、学習  
の理解や習熟の状況

児童生徒の「学力」の値の  
差を「伸び」とし  
それを学校別に平均した値

# 学校ごとの「学力」平均値と「学力」の伸びの比較グラフ

## 「伸び」はどの学校でも実現できる



「学力」平均値

「学力」の伸び 平均値

16.7%

20.8%

27.8%

6.9%

27.8%

児童生徒の「学力」の値を  
学校別に平均した値

※「学力」…  
横浜市学力・学習状  
況調査における、学習  
の理解や習熟の状況

児童生徒の「学力」の値の  
差を「伸び」とし  
それを学校別に平均した値

「学力」の平均値  
(R4の結果)

「学力」の伸び  
(R3とR4の結果を比較)



# 分析の結果

国語と算数、数学の「学力」の伸びの比較

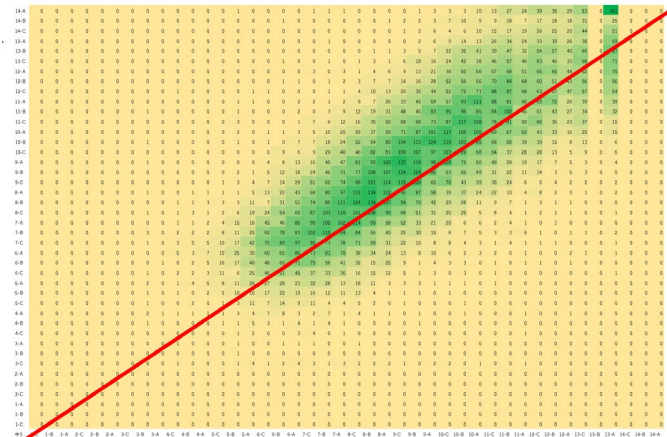
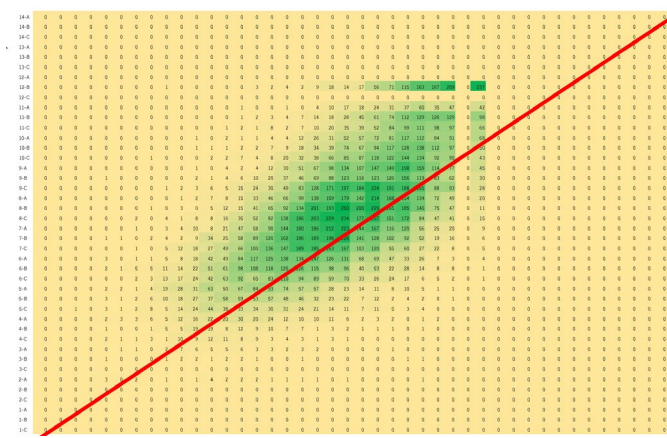
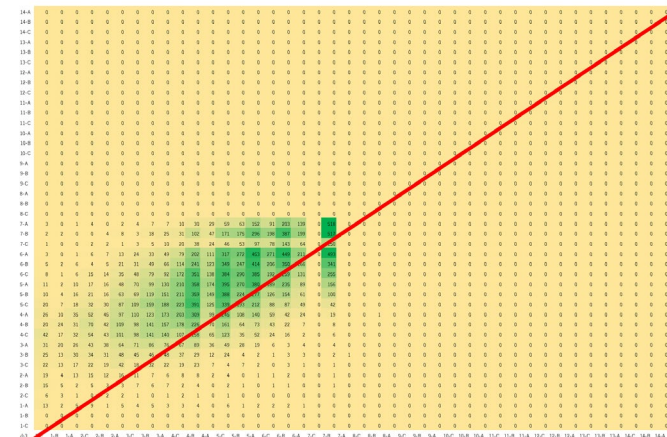
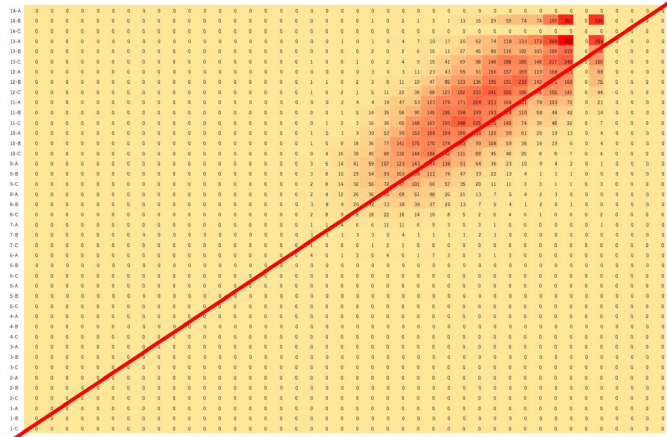
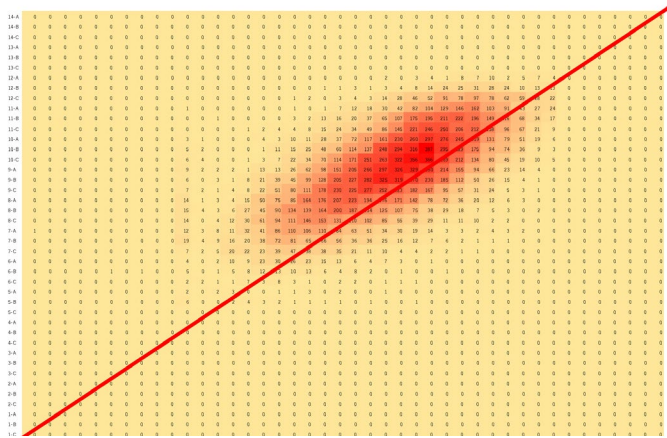
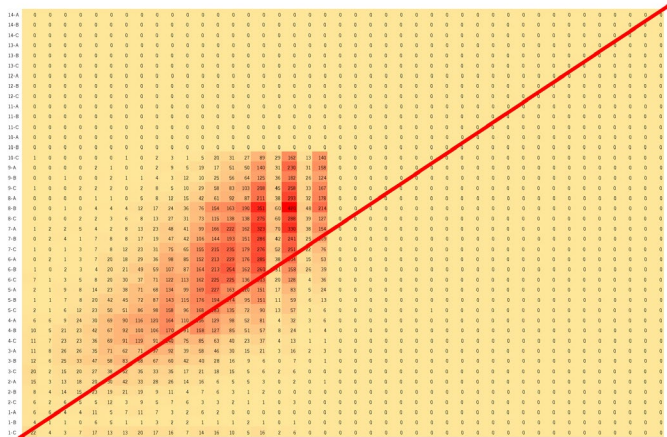


国語

小3

小6

中3



算数  
数学

小3

小6

中3

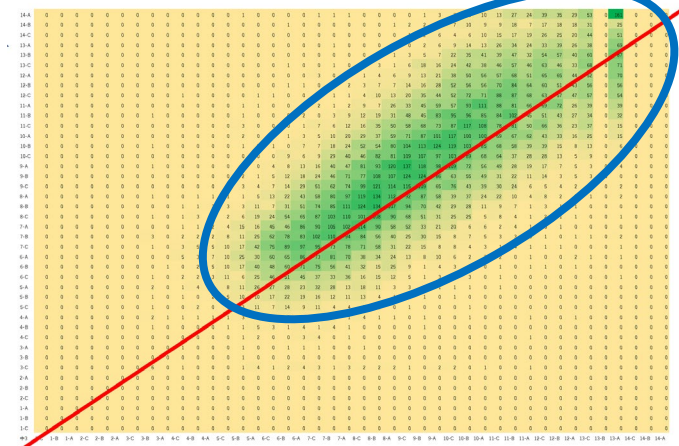
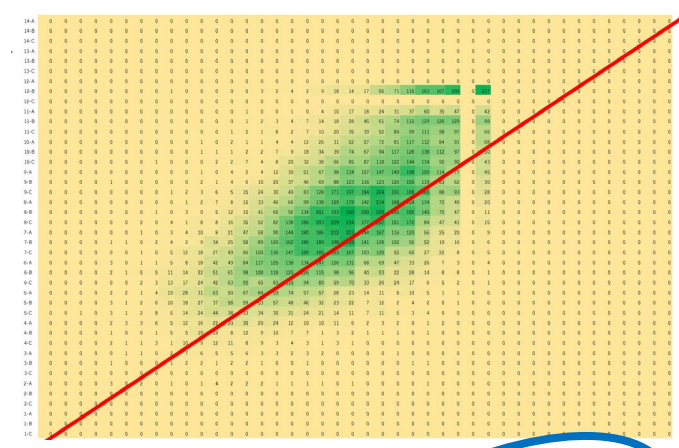
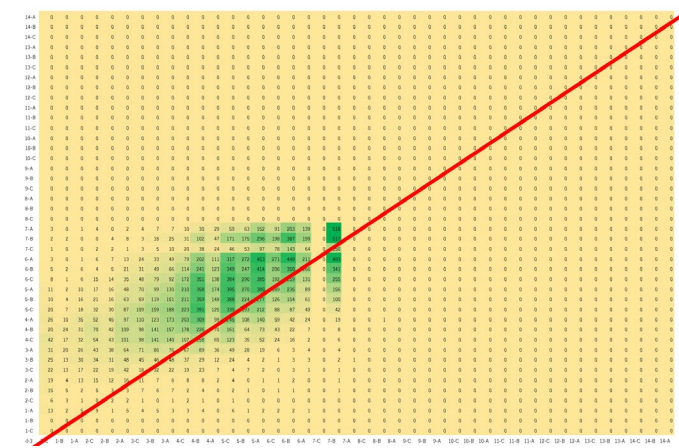
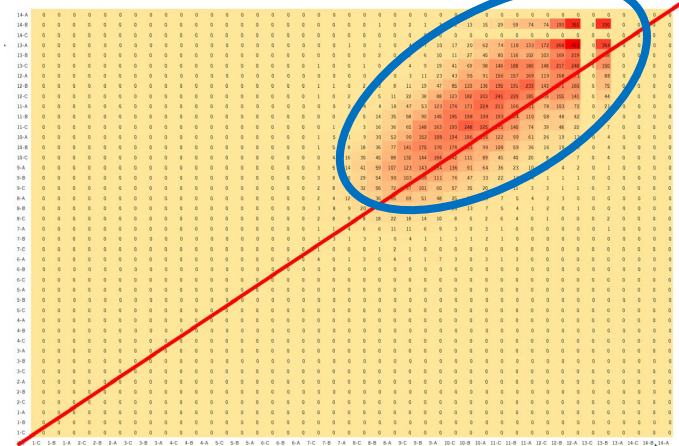
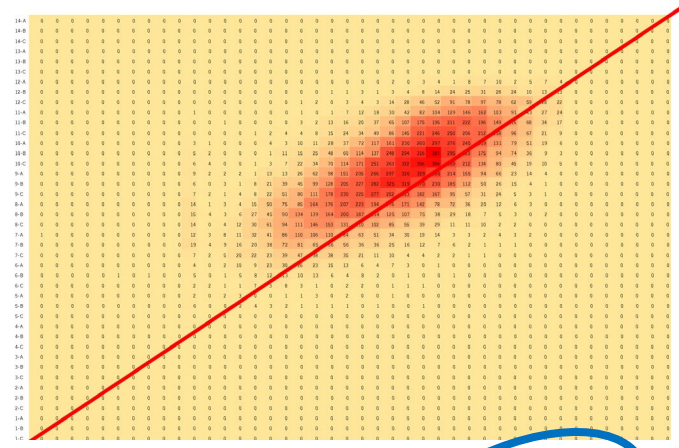
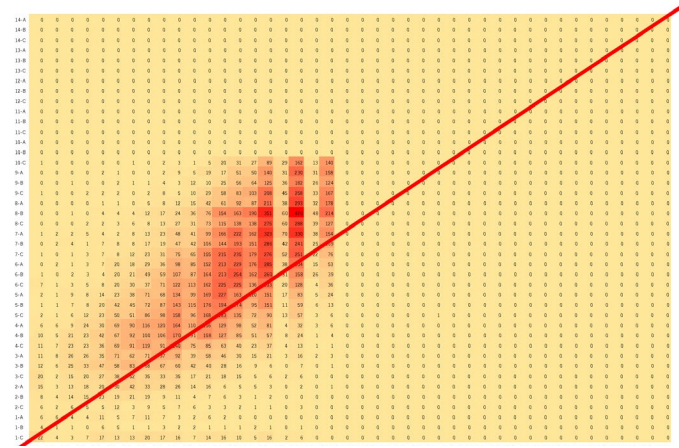


国語

小3

小6

中3



算数  
数学

小3

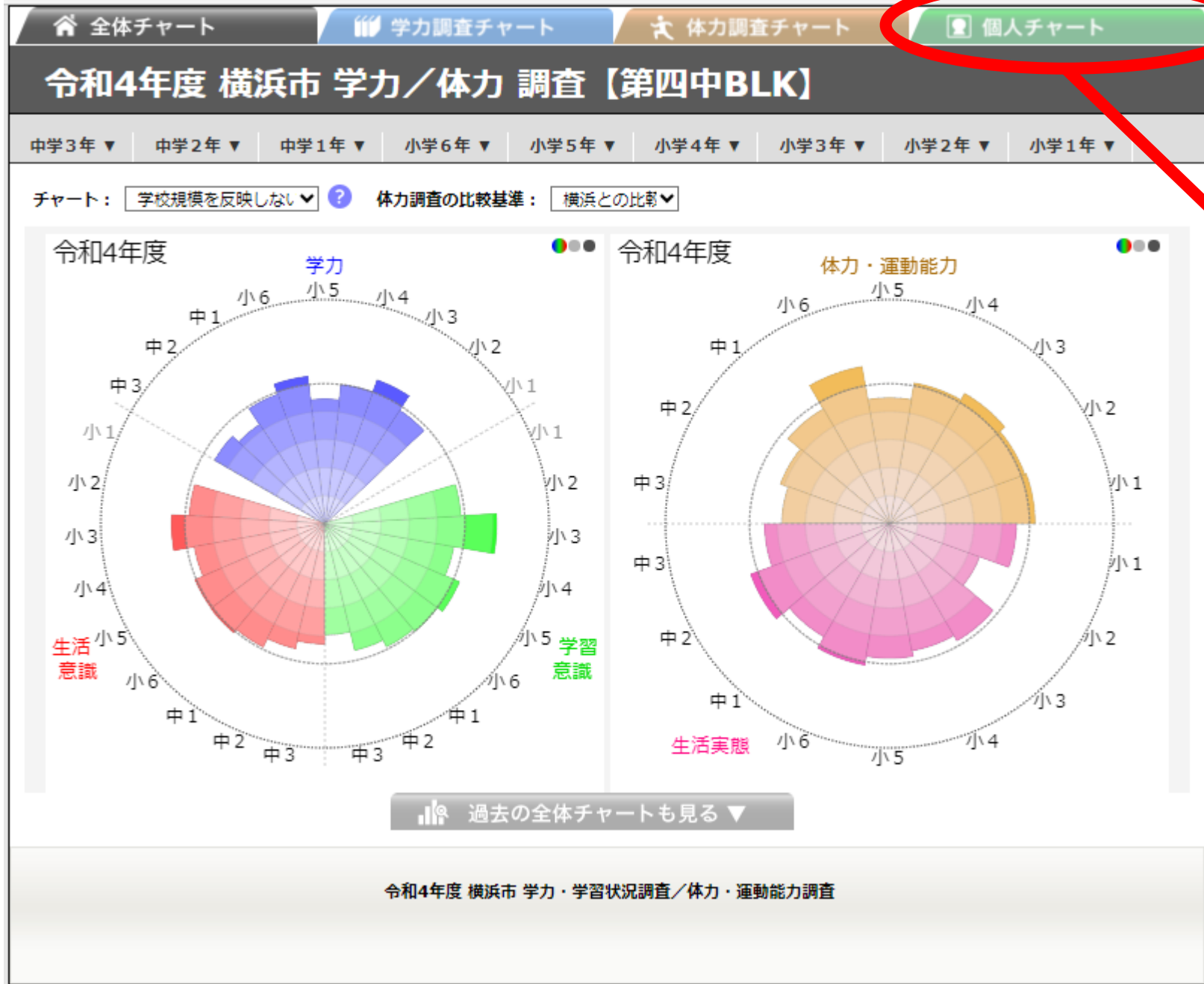
小6

中3

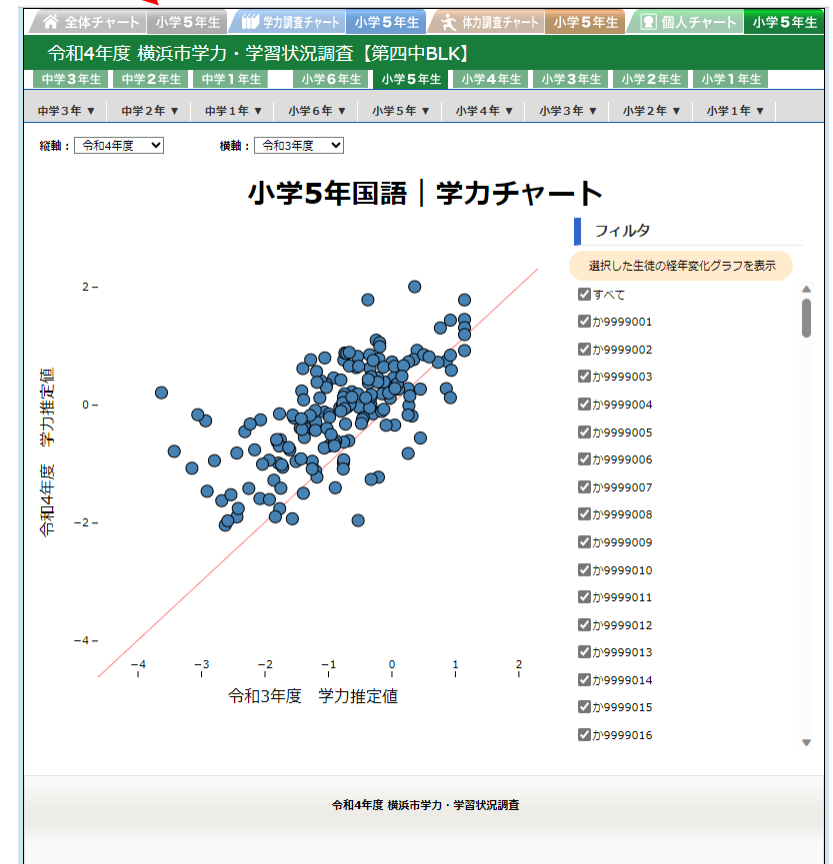


# 結果をどう生かすか

横浜市独自の分析チャート

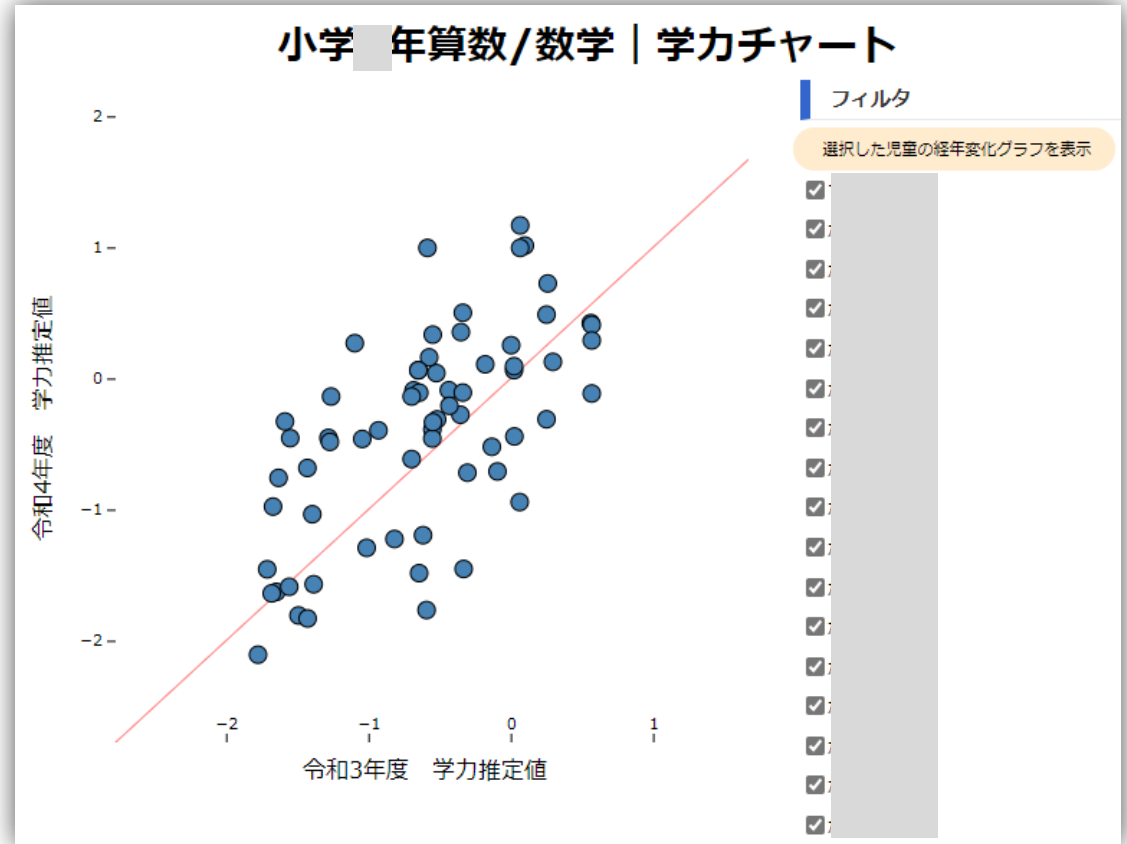


# 分析チャート



# 伸び悩んでいる子を見てみると

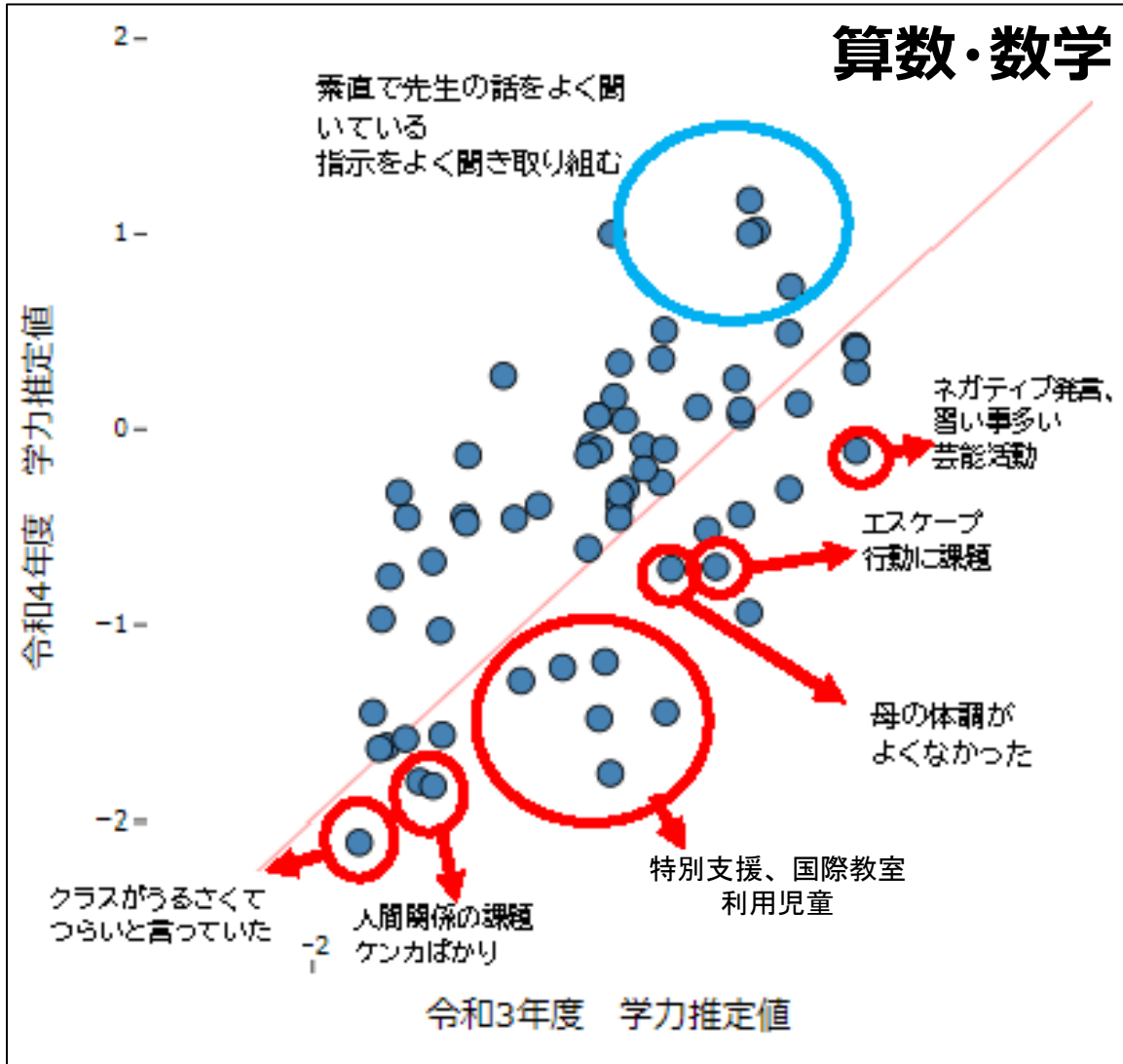
## 分析チャート 「個人チャート」から



学年の先生と15分ショート会議

# 伸び悩んでいる子を見てみると

## 分析チャート 「個人チャート」から



- ・特別支援、国際教室利用児童が多い  
→支援はしているが
- ・学習に向かう意欲が低い児童
- ・家庭の支援が乏しい
- ・行動に課題あり
- ・母集団の安定が必要
- ・認められたい、ほめられたい



さらにどんな支援ができるか？

指導案にチャートを添付し、児童の実態把握、支援策を考える一助とする



# 結果をどう生かすか

学校の取組

全国学力・学習状況調査

学校質問紙から

## 伸ばすことができている学校の特徴

全国学力・学習状況調査学校質問紙の回答結果を活用  
伸びが大きい学校と、伸びが小さい学校の回答結果を比較

質問項目【小学校・中学校共通】	伸びが大きい学校	伸びが小さい学校
調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、 学校生活の中で、 <b>児童（生徒）一人一人のよい点や可能性 を見つけ評価する（褒めるなど）取組</b> を行いましたか	小：1.469 中：1.579	小：1.706 中：1.909
調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの <b>話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることが できている</b> と思いますか。	小：2.041 中：1.789	小：2.353 中：1.909

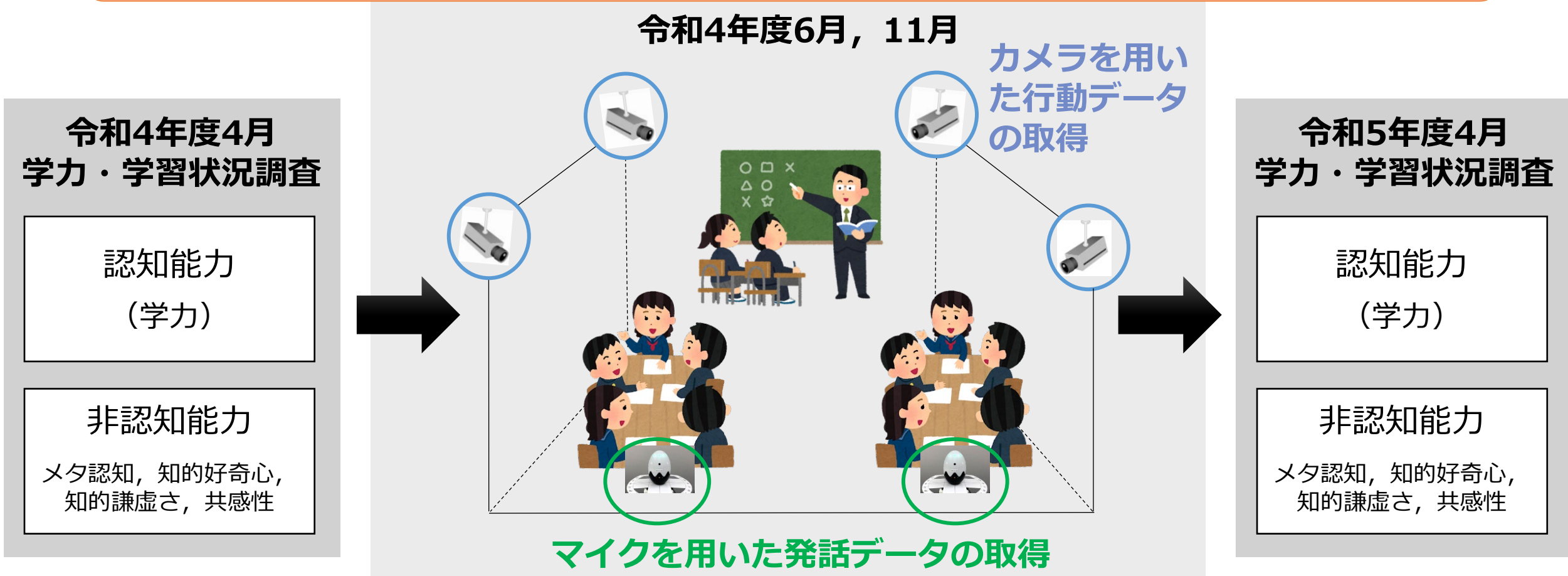
※：1よくしている 2どちらかといえば、している 3あまりしていない 4全くしていない  
の四件法が主な調査のため、**上記の数値が少ない方が「よい」回答**をしていると解釈

# 教育委員会の支援

社会情動的コンピテンシーの調査研究

# 社会情動的コンピテンシー調査研究について

- 学力と社会情動的コンピテンシーの関係について検討
- 学力・社会情動的コンピテンシーの成長を促す教師の指導, 児童生徒の学習について検討



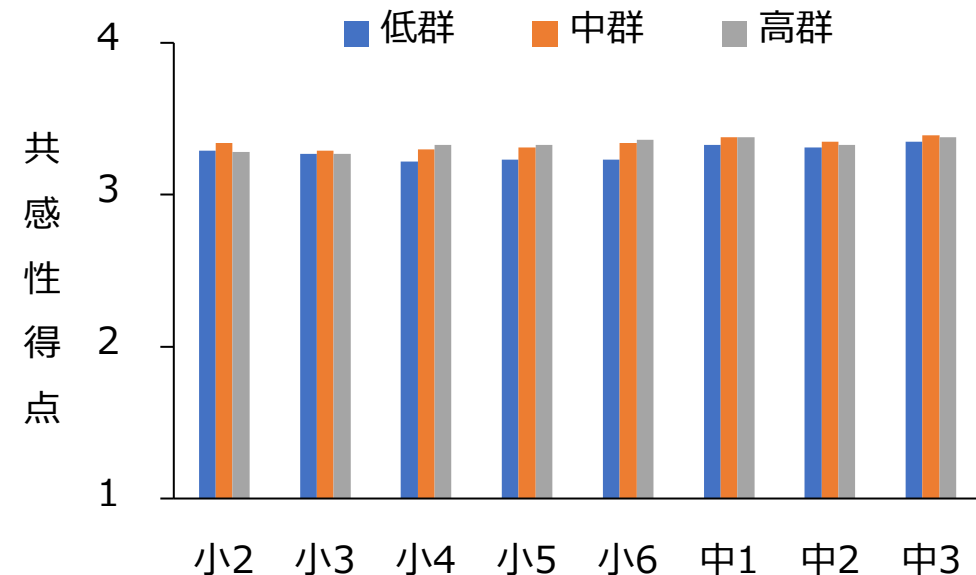
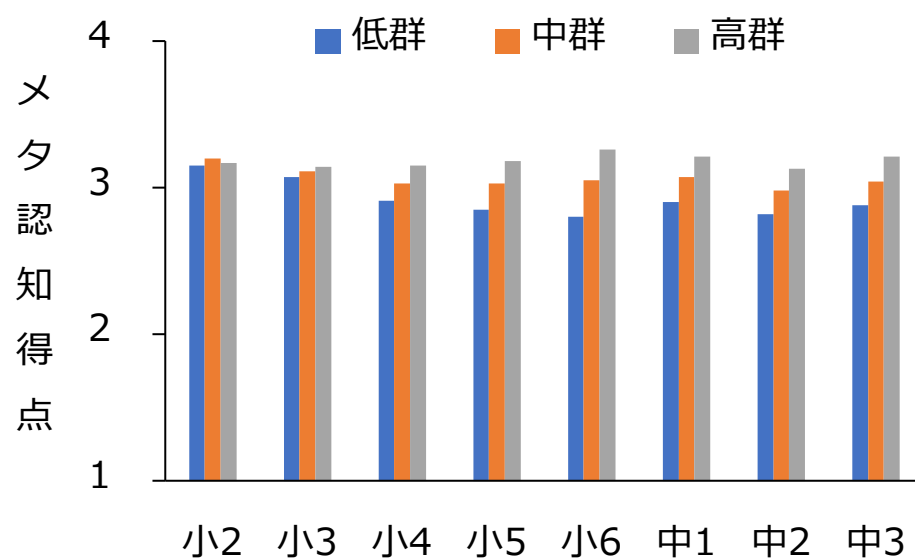


# 学力と社会情動的コンピテンシーの関係

## —令和4年度横浜市学力・学習状況調査の分析—

- **メタ認知や知的的好奇心、知的謙虚さの高い児童生徒ほど、学力テストの得点は高い傾向**  
(ただし、関連は強いものではない)

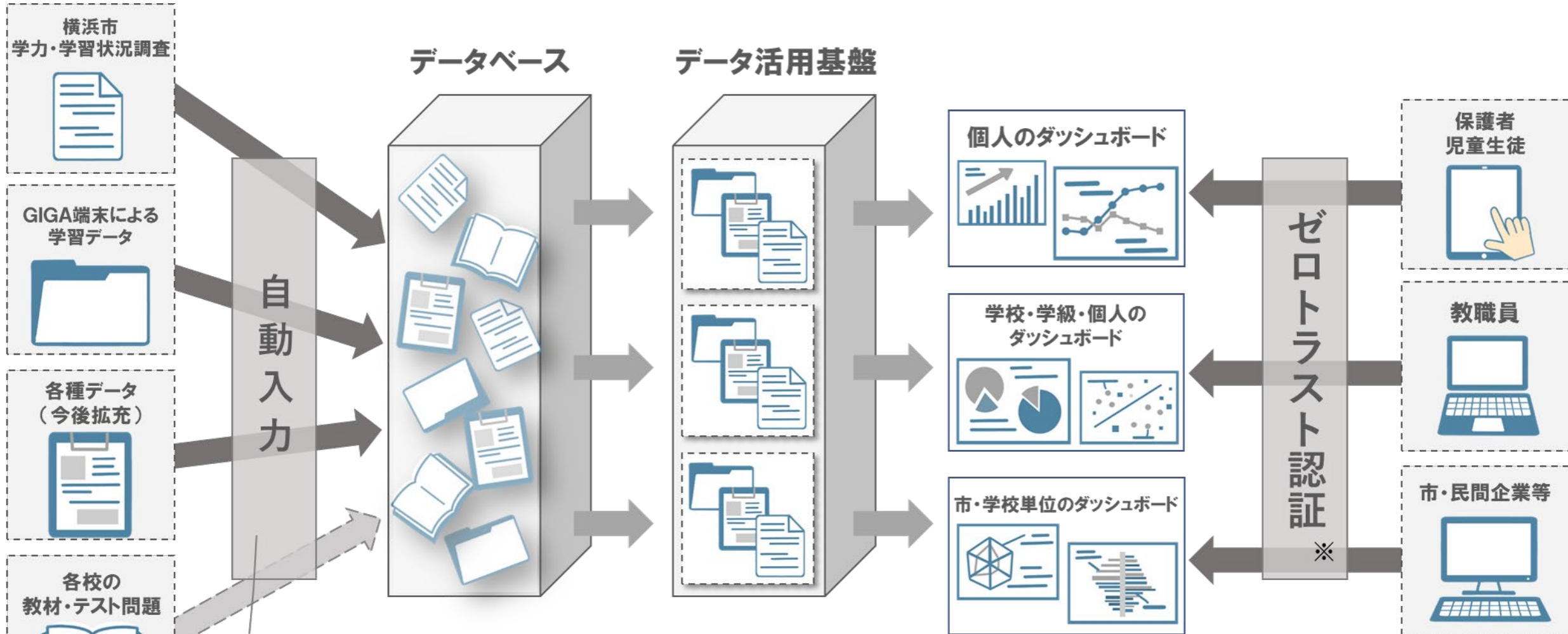
- **共感性と学力テストの得点の間にはほとんど関連がみられなかった**



# 教育委員会の支援

## 学習支援システムの構築

# 学習支援システム



将来的には全て自動入力を目指す  
教材やテスト問題のようなデータも保存

※本人の認証や安全性の確認を毎回行う、  
アクセス制御によるセキュリティ対策



横浜市

IRT型 学力・学習状況調査について

